

平成24年度新潟県支部同窓会総会の開催報告

平成24年6月2日(土)、新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で、新潟県支部同窓会定例総会を開催しました。当日は会員35名の出席があり、大学から来賓として獣医学部動物応用科学科の太田光明先生、客員教授の楠原征治先生のご臨席をいただきました。

総会に先立ち、故小林宏先生(S28卒)、大須賀和夫先生(S49卒)のご冥福を祈り黙禱を献げました。

総会は、岡澤武夫会長(S35卒)の挨拶に始まり、会長を議長として議案が審議され、平成23年度事業報告及び収支決算並びに平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)は、いずれも原案どおり承認されました。

平成23年度事業報告には、麻布大学祭への参加について報告がありました。大学から滝沢達也先生他2名の先生方、学生9名の協力を得て、実行委員10人が参加して、「笹団子」及び「佐渡産コシヒカリ」の販売を行った旨、及びその決算について報告がありました。

総会の後、太田先生から「人はなぜ動物に癒されるのか!?—最新の研究成果から—」と題して講演があり、会員の他に新潟市動物愛護協会から4人の聴講がありました。人が動物とふれあい癒されることを、科学的に解明していく研究の成果が紹介され、癒しの医学的な研究が進められていることがわかりました。幸せホルモン；オキシトシンが動物とのふれあいで分泌されるとか、ドイツの医療従事者の95%は、動物介在療法に効果があることを認めていることなどを示され、日本の医学の遅れを認識させられました。



続いて催された懇親会は、小松原先生(S24卒)の乾杯で始まり、参加会員の自己紹介と近況報告、酔いが回れば「寮歌」、「記念祭の歌」そして、毎年恒例の早福昌司先生(S34卒)の「数え歌」の合唱で大いに盛り上がりました。

最後は懇親会の出席者で最も若い、中川一恵さん(H12卒)の一本締めで来年の再会を約束し、宴を終了することができました。

新潟県支部は総会に併せて毎年「新潟県同窓会報」を発行しています。今回で第41号となり、内容は、本部及び支部の活動状況、会員からの寄稿による「職場紹介」「症例報告」などで、今回は特に大学祭への参加報告が掲載されています。

事務局 田村務(S58卒)